（様式１－２）

Ⅰ　学校の概要

外国語教育推進モデル校事業　**高松市立塩江中学校**

◆児童生徒数及び教員数

〇生徒数　３２名

第１学年	第２学年	第３学年	特別支援	全　校
１学級 ７名	１学級 ８名	１学級 １０名	２学級 ７名	５学級 ３２名

〇教員数　１３名

◆学校の特色

本校は、施設一体型の小中併設校である。過疎化が進み、児童生徒数は年々減少しているが、子どもたちは仲がよく、教職員にも親しみを持って接し、温かい雰囲気の中で学校教育活動が営まれている。子どもたちや学校に対する地域の期待は高く、地域の方は学校に協力的で、総合的な学習の時間等において、子どもたちは、塩江の良さを発信する経験を積んでいる。その成果により、昨年度の調査では、新１年生が、「塩江の良さを外国の方に発信したい」という願いを強く持っていることが分かった。

外国語の学習については、中学校に入学して、苦手意識を持つ生徒が増えることも懸念されるが、少人数であることや、小中連携をしやすいといった強みを生かすことにより、学力の向上を図りたい。

Ⅱ　研究主題等

小学校の学びを中学校で生かす英語科における指導方法の工夫

◆研究主題設定の理由

本校は、小中併設校であり、小学校と中学校の連携が取りやすく、小中連携への障壁が低い。昨年度は小中で連携して CAN－DO リストを作成したり、中学校教員が小学６年生の授業に関わったりと、協働の場面を設けた。今年度は、さらに、連携を進め、子どもたちの学力向上を図りたい。

小学校では、音声によるコミュニケーションや ICT 機器の活用が活発に行われている。また、総合的な学習の時間には、塩江の良さを知り、その良さを発信する試みもなされている。そうした小学校での学びを生かすとともに、少人数ならではの個に寄り添う指導によって、子どもたちが英語を身近なものとしてとらえ、自身の成長を実感できる英語科の指導方法について研究していきたい。

◆研究内容及び方法

１　小中で連携できることの強みを生かした生徒の実態把握
２　生徒の実態に寄り添い、それぞれの個を生かす授業づくり
３　授業参観や交流授業を通した気づきの共有
４　小学校での学びを生かした音声によるコミュニケーション活動
５　ICT 機器を活用した発信の機会の創出

Ⅲ　成果の評価計画（検証方法）

1　生徒による振り返りを実施し、生徒の評価によって、教師が、随時、自身の授業を振り返る。生徒の声をもとに授業改善を図り、生徒に寄り添い、個を生かす授業づくりに資する。

2　Teams に Excel シートを用意し、教師だけでなく、子どもたちもお互いの振り返りを見ることができるようにする。互いの気づきを共有することで、学びが深まることが期待できる。振り返りの内容（評価項目）を工夫し、生徒自身が自己の成長を実感できるようにしたい。

3　学校評価や学習状況調査から生徒の変容をみる。

①　「研究成果の参考とする 10 の指標」の調査を４～５月に実施し、その結果を基準値とする。

②　基準値や県の調査結果、生徒の実態等を踏まえて目標値を設定する。

③　11 月に調査を行い、達成状況を考察する。

※①については、調査の結果を基準値とするだけでなく、個々の興味・関心等を見取ることにより、指導の個別化や学習の個性化を図る。

Ⅳ　研究成果の普及方法

1　生徒たちが作成し、配布したパンフレットを校長会等で配付する。

2　高松市教育委員会が開催する「放課後ちょいスクール」で発表する。